

英語 1 2007 年度・冬学期・1 年生試験略解 (文責: ★Ria★)

A. Art (I. 71~103)

本文は、二つの異なる芸術 (Art) の味わい方 (appreciation) について述べた文章です。

- ① **筆者の見解**: 芸術を理解するには、おのこの展覧会のテーマを理解する必要がある。
catalog に書いてある歴史的背景や芸術家の生涯などの補足説明は展覧会のテーマの
理解に役立ち、また catalog を見ながら展覧会のテーマや個々の作品についてじっく
り考えることができる点で、catalog は芸術の理解に役立つ。→ 思想を重視
- ② **Angela Jeffs の見解**: 作品そのものを手に入れて鑑賞することに大変価値がある。→
物理的な (さくひんその) ものを重視

出題文は、しばしば日本の展覧会のテーマになる Japonisme の遷移について説明した部分
である。同じ Japonisme の作品でも、眺めるテーマによってその作品の意味が異なる (後
述) から、Japonisme の遷移を説明をしているのである。

※文章全体の流れがつかみにくい文章でした。解釈が間違っているかもしれません><

- (1) d (2) a (3) b (4) b (5) b
(6) i (7) e (8) b (9) k

(ア) Japanese art

(イ) modern Western paintings

(ウ) 欧米諸国と同化しようとし、その価値を西洋に認められることから得ようとする歪
んだナショナリズム。

B. Baseball (I. 180~243)

「Denver にある Coors Field でなぜこんなにも多くのホームランが打たれたか？」につい
ての研究結果をまとめ部分である。多くの人はこの理由が、安直に「Coors Field は標高が
高いため空気が薄く、ボールが遠くまで飛びやすい」からと考えてしまう。しかし、Frederick
Chambers らは実際の試合のデータを解析し、「Coors Field は多くのホームランが打たれ
ることで有名であるため、ピッチャーが自信を失ってしまうこと」および「有能なバッタ
ーとあまり上手くないピッチャーからチームが構成されていたこと」が最大の原因だと突
き止めた。(少なくとも、現時点では)

- (10) a (11) b (12) i (13) e (14) h
(15) d (16) e (17) a (18) g (19) c

C. Life (A:l.89~111, B:l.113~130)

Artificial life 「人工生命」について述べた文章である。出題文は、人工生命に関する初めてのワークショップで、様々の分野の人工生命研究者が「人工生命研究者」として同胞の意識を持ち、人工生命の研究の意義を確信したことについて述べた部分である。この後には、実際の生命の特徴をシュミレーションした人工生命の具体例について述べ、人工生命の研究の多大な意義について述べている。

- (20) b (21) e (22) c (23) h (24) c, d
(25) d (26) b (27) b (28) a (29) a
(30) b

※(24) 問題の意味がよくわからなかったのですが、c と d はともに「ワークショップを通して人工生命の研究者が人工生命を研究することの意義を確信できた」ことを示しています。これに対し、a は「ワークショップ以前は『人工生命』という研究分野がなかったこと」、b は「ワークショップ以前に人工生命研究者達が抱えていた似たような問題」について述べています。